

ナス新品種「佐賀N4号」を品種登録出願しました

【野菜研究担当（育種）：0952-45-2143】

単為結果性（ホルモン処理やハチによる受粉がなく、安定的に着果肥大すること）かつとげなし性で、草勢が強く、高収量・高品質なナス新品種「佐賀N4号」を開発し、令和6年2月に品種登録出願をしました。

「佐賀N4号」は冬場でもボリュームがあり、果実品質に優れ、商品果収量は現地選抜試験2か所の平均で「PC筑陽」の約1.3倍でした。また、へたのトゲがなく作業性も優れます。

令和5年度は現地試験を5株規模で4か所、70株（1畝）規模で3か所の計7か所で行いましたが、栽培方法についてはまだ手探りの状況です。そこで、令和6年度からは、施肥量や整枝の方法などの栽培技術の確立を行っていきます。また、品種登録の出願公表後は市場への流通が可能となるので、今後は市場評価を行うとともに、生産者の声を聴きながら普及を図っていきます。

「さが園芸888運動」への貢献に期待しています。

【「佐賀N4号」の特長】

①高収量

- ・商品果収量が「PC筑陽」と比べて1.3倍と優れる
- ・草勢が強く、生育が早い

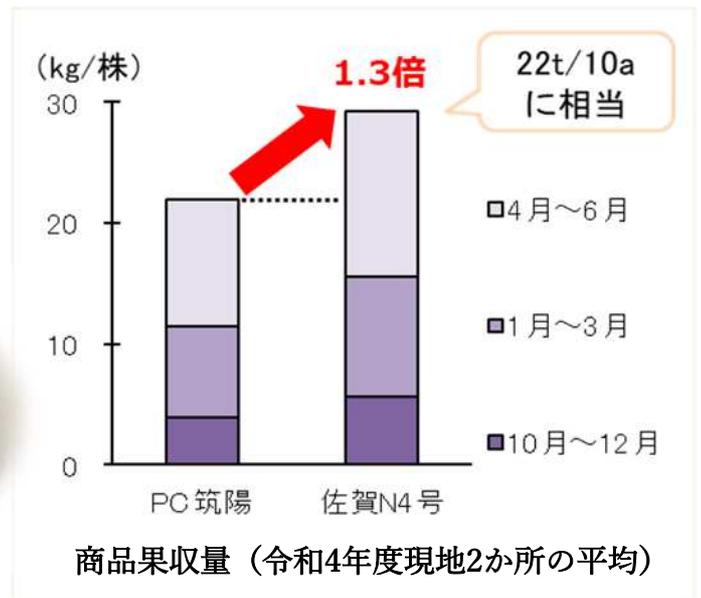
②高品質

- ・日焼け果やつやなし果が出にくい
- ・首が太く、冬場もボリュームがある
- ・果肉が緻密で、煮物や揚げ物に適する



③作業性が優れる

- ・単為結果性で着果促進処理が不要
- ・とげなし性で安全に作業でき、果実を傷つけない



「佐賀N4号」の果実品質および収穫日数

品種名	冬期(12月～2月)					a*値	収穫までの日数(日)
	果実長(cm)	首径(cm)	尻径(cm)	一果重(g)			
佐賀N4号	19.7	4.2	4.9	157	2.7	32	
PC筑陽	20.9	3.5	4.7	139	2.3	29	

※a*値は値が低いほど濃果皮色を示す



「佐賀N4号」の果実

研究成果の紹介

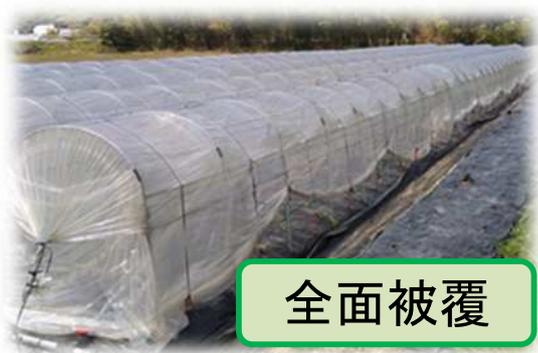
夏秋ピーマンの収穫前進化技術を開発しました！

【三瀬分場 山間農業研究担当（畑作）：0952-56-2040】

佐賀県の中山間地域における簡易雨よけ栽培の夏秋ピーマンは、晩霜の影響を受けにくい5月以降の定植が一般的となっています。しかし、産地ではさらなる収益向上を目指すため、定植時期の前進化による作期延長が望まれています。そこで、写真のようなサイド・妻面及び内部トンネルの全面被覆によって晩霜を回避し、4月上旬に定植する収穫前進化技術を開発しました。

【得られた成果】

- ① 収量性：4月上旬定植では5月上旬定植に比べ収穫が2週間程度早まり、6月の可販果収量が約900kg/10a増加しました。その後の月別可販果収量は、慣行とほぼ同等でした。
- ② 収益性：4月上旬定植の全面被覆に費用を要しますが、9月末までの販売額が上回ることから、利益は約20万円多くなりました。



収益性 (円/10a)		
試験区	4月上旬区	5月上旬区
販売金額	2,174,129	1,903,012
費用	89,440	25,080
利益	2,084,689	1,877,932

約20万円アップ！

中山間地における水稻品種「にじのきらめき」の栽培法

【三瀬分場 山間農業研究担当（稲作）：0952-56-2040】

水稻品種「にじのきらめき」は「コシヒカリ」並みの極良食味で、多収で倒れにくく、高温登熟耐性があり、いもち病にも強い、中山間地向きの期待の品種です。2021年に県認定品種に採用され、本県中山間地で作付けが広がっているため、栽培技術の確立に取り組みました。

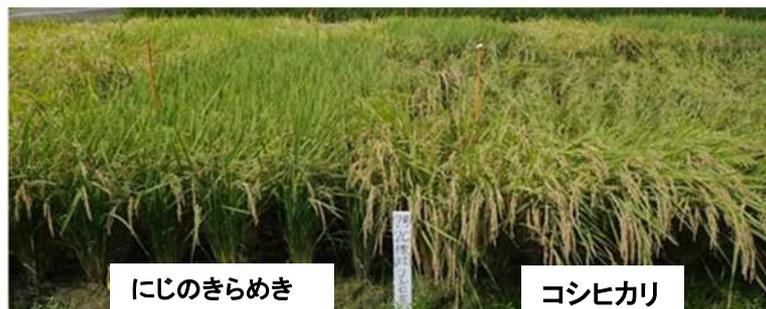
「にじのきらめき」は、「コシヒカリ」と比べて肥料が必要で、適正な施肥・栽培を行えば、600kg（10俵）/10a以上の多収も狙えます。

★「にじのきらめき」の特徴★

- ① 「コシヒカリ」並みの**美味しさ**！！
- ② 「コシヒカリ」より**多収**！！
- ③ **大粒**で、玄米の外観が**きれい**！
- ④ 短稈で、**倒れにくい**！
- ⑤ **高温に強い**！
- ⑥ **病気**（いもち病）が**出にくい**！

☆中山間地における「にじのきらめき」の栽培法☆

- 1) 移植適期：5月下旬
- 2) 施肥法：（基肥）窒素成分8.0kg/10a
（穂肥）窒素成分3.0kg/10a
合計 T-N11.0kg/10a
- 3) 穂肥施用時期：出穂20日前頃
- 4) 栽植密度：約70株/坪（20.3株/m²）
- 5) 収穫適期：出穂後43～50日頃、
積算気温1,000～1,150℃



「にじのきらめき」と「コシヒカリ」の比較

研究成果の紹介

キャベツへのミミズ侵入を防ぐには、圃場の排水対策が肝心

【病害虫・有機農業研究担当 0952-45-8808】

県内の一部のキャベツ圃場で、ツリミミズ科のフクロナシツリミミズ（以下、ミミズ）が結球内へ侵入することによる異物混入が問題となっています。そこで、当センターでは降雨や土壌表面の水分量とミミズの行動を調査しました。畝間が湛水するような強い降雨があると、ミミズのキャベツ内への侵入が起きること、また、土壌表面が乾燥しているとミミズが地上に出てこないことが明らかとなりました。以上のことから、キャベツへのミミズ侵入を防ぐには、圃場の排水対策を徹底することが有効です。



キャベツに侵入するミミズ

土壌水分量と移動性の関係

温度	土壌表面の水分	移動した割合
20℃	湿潤	100
20℃	乾燥	0
5℃	湿潤	93
5℃	乾燥	0

トピックス

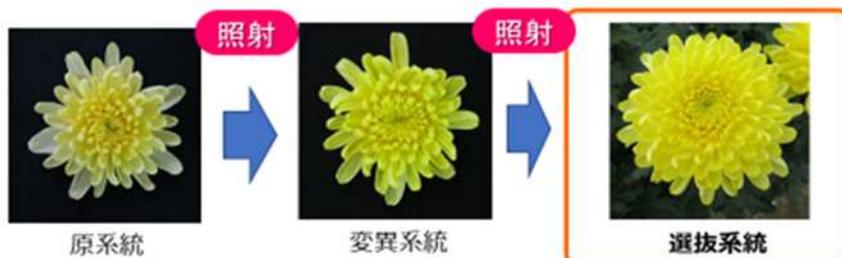
シンクロトロン光で鮮やかな濃い色のキクに！バラエティ豊かなキクの品種を開発中！

【花き研究担当 0952-45-2143】

シンクロトロン光とは、放射線の1種で品種改良への活用が期待されています。当センターでは、佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターにおいて、キクにシンクロトロン光を繰り返し照射し、淡い色から段階的に濃く改良し、バラエティに富んだ花色のキク品種の開発を行っています。

近年では、仏花だけでなく、洋風なアレンジでも使えるほど、キクの用途は拡大しています。

品種化にむけて、栽培適性試験等、さらさら選抜を繰り返していきます！



佐賀RK1号【ロゼバルーン】の洋風アレンジメント

トピックス

重粘土地帯における焼酎原料用かんしょの試験に取り組んでいます

【 白石分場 露地野菜研究担当 0952-84-5169 】

近年、かんしょの主要産地である南九州では、サツマイモ基腐病の被害や生産者の高齢化等により、産地が縮小傾向にあります。特に焼酎原料用かんしょについては、酒造メーカーが必要とする原料を十分確保できていない状況にあり、北部九州での生産に期待が寄せられています。

そこで、令和5年度から県内各地域において、生産者や酒造メーカー、JA等の関係機関と連携し、焼酎原料用かんしょの栽培を試験的に開始しました。白石分場では、重粘土地帯における栽培試験に取り組んでおり、今年度も排水対策、雑草・病害対策に留意しながら、有望品種の栽培条件（作期、施肥）や機械収穫の検討を進める予定です。



定植約4か月後の
試験圃場の状況
(かんしょの地上部)

白石分場の紹介

白石分場では、平坦重粘土地域におけるタマネギ、ブロッコリー等の露地野菜の栽培に関する試験研究を行っています。特にタマネギについては、さらなる規模拡大を可能とするための「機械収穫、作期拡大、直播栽培」等に関連する試験に力を入れています。

また、かんしょ、かぼちゃ等の新規品目の試験栽培にも着手しています。その他、「いちごさん」の優良種苗（無病原々種苗）を増殖し、現地に供給しています。

今後も、「さが園芸 888 運動」に貢献できるよう試験研究に取り組んでいきます。



新規採用職員紹介

4月から新規採用職員として勤務しています。



発行所

佐賀県農業試験研究センター

(企画調整部 企画・スマート農業研究担当)

〒840-2205 佐賀県佐賀市川副町南里1088

TEL 0952-45-2142

FAX 0952-45-8801

E-mail nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

佐賀県農業試験研究センター

検索

当ニュース記事を利用される場合は、御一報ください。